

県直営による公の施設の管理運営状況

施設の名称	群馬県立ぐんま昆虫の森
所在地	桐生市新里町鶴ヶ谷460-1
所管部局・課	教育委員会 生涯学習課

1 施設の設置根拠(法律、条例等)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第30条、群馬県立ぐんま昆虫の森の設置及び管理に関する条例
--

2 施設の役割

(1) 設置目的 人間にとって最も身近な生き物である昆虫を題材として、里山という空間で昆虫や小動物を見つけ、その体験を通して生命の大切さに気づき、豊かな感性を育む新しいタイプの施設にすることを目指して、ぐんま昆虫の森を整備した。 (2) 設置当初の状況 生き物の観察やふれあいを通じて自然と環境を実体験として学べ、次世代を担う子ども達が自然や環境を理解し保全する心を培うことに役立つとともに、学校教育の補完施設としても重要な役割を果たしている。 (3) 施設を取り巻く現状 「公共施設のあり方検討委員会」は、ぐんま昆虫の森は「直ちに廃止すべきとまでは言えないが、運営内容等の徹底した見直しと利用者増加の積極的な努力が強く求められる施設である」ことを骨子とする中間報告を平成20年10月30日に知事に行った。 これに基づき、4年計画により施設運営の見直しと経費の大幅な削減を行うとともに、学校利用の一層の促進や地元との連携強化を行った。 開園20周年(令和7年)を機に、令和6年度から施設の方向性について検討を行っている。

3 施設の概要

設置年月日	平成17年8月1日
敷地面積(所有者)	226,905平方メートル(群馬県)、223,853平方メートル(桐生市からの借地) 合計450,758平方メートル
主な施設(床面積、階数等)	昆虫観察館本館(延床面積5,084平方メートル、地上3階・地下1階建)、昆虫観察館別館(延床面積1,344平方メートル、地上1階・地下1階建)、食草・育成温室(延床面積537平方メートル、地上1階建)、合計(延床面積6,949平方メートル)
建設費	7,166,000千円

◇入園料・利用料等 (円)

区分	金額	◇利用時間(休館日)
一般	410	【開園時間】 ○4月～10月末日:9時30分～16時30分 ○11月～翌3月末日:9時30分～16時 【休園日】 ○毎週月曜日(但し、月曜が祝日の場合は翌火曜日) ○年末年始(12月27日～1月5日) ○メンテナンスのための臨時休園
大学生・高校生	200	
中学生以下	無料	

4 施設における実施事業

○フィールド

・ボランティアガイドが同行する自然観察会や昆虫観察会など

○昆虫観察館

・常設展示に加え、企画展・季節展等

・生態温室のガイドツアー、チョウの飼育状況が観察できるバックヤードツアーなど

・昆虫の標本作り、昆虫の生態を顕微鏡などを使って学ぶ昆虫教室、昆虫ショーなど

・体験プログラムとして、ドングリなどの木の実や小枝を使った木工クラフト、竹や紙、まゆなどを使って作品を自分で作り上げるクラフトなど

・映像ホールにおいて、昆虫の生態を興味深い形で撮影したビデオ作品の上映 など

5 管理運営コストの状況

施設の管理運営に係る収支 ※施設の管理運営に係る県の歳入・歳出を記載

(千円)

区 分	5年度(決算額)	4年度(決算額)	3年度(決算額)	2年度(決算額)	元年度(決算額)	H30年度(決算額)	H29年度(決算額)
歳 入(①)	19,615	24,031	16,706	13,149	20,900	20,639	18,441
使用料(入園料)	14,841	15,979	13,296	10,445	16,980	17,990	15,413
使用料(入園料以外)	1,995	5,172	944	839	1,507	1,553	1,845
雑入(雇用保険料等)	1,345	1,446	1,032	670	979	1,096	1,183
土地貸付料(自販機設置料)	1,434	1,434	1,434	1,195	1,434		
基金							
歳 出(②)	223,502	218,167	187,851	195,452	179,633	181,567	179,670
常勤職員	86,407	85,503	83,948	82,012	83,091	82,560	80,287
非常勤職員	33,371	32,659	31,790	29,655	27,149	27,119	26,442
修繕費	23,423	3,564	835	867	757	942	870
委託費	47,663	45,084	44,094	42,548	40,502	40,291	41,456
事業費	32,638	51,357	27,184	40,370	28,134	30,655	30,615
歳入・歳出の差額(①－②)	-203,887	-194,136	-171,145	-182,303	-158,733	-160,928	-161,229
歳入・歳出の主な増減理由	・令和2年度及び3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止措置により入園者数が減ったため、コロナ前の令和元年度に比べ入園料収入も減少した。						

6 職員の状況(各年度4月1日現在)

(人)

	5年度	4年度	3年度	2年度	元年度	H30年度	H29年度
常勤職員	10	10	10	10	10	10	10
非常勤職員	16	19	18	17	20	20	17
合 計	26	29	28	27	30	30	27

7 施設利用の状況

年度別の利用者数

区 分	5年度※1	4年度	3年度	2年度	元年度	H30年度	H29年度
年間利用者総数(人)	109,640	110,661	91,381	71,444	123,997	134,516	118,596
有料利用者数(人)	40,716	42,246	56,508	24,830	41,231	44,044	38,029
無料利用者数(人)	68,924	68,415	34,873	46,614	82,766	90,472	80,567
目標利用者数(人)※2	97,500	97,500	97,500	97,500	97,500	97,500	97,500
施設稼働率(%)※3							
稼働率対象施設(設備)							
利用者の主な増減理由	・令和2年度及び3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止措置による休園及び入場制限を行ったため、コロナ前の令和元年度に比べ入園者数が大幅に減少した。 令和4年度から入場制限を解除したことで、10万人台の利用者数に回復した。						

※1 令和5年度末時点の利用者数

※2 目標利用者数を設定していない場合は無記入

※3 施設稼働率の概念が当てはまらない施設は無記入

8 必要性及び管理運営方法についての方向性

区分	内 容
施設の必要性	ぐんま昆虫の森は、静的な展示による博物館ではなく、生きた昆虫や広大なフィールドを活用した体験施設であり、身近な里山の自然環境の中で生き物に接し、事前環境と人間の関わりを学ぶことのできる貴重な施設である。 主に子どもを対象として土日に様々な体験プログラムを提供しているほか、学校教育を補完する理科等の校外学習の場として特別なプログラムを実施している。 この結果、平成30年度は過去最多となる134,516人の入園者となった。また、令和4年度は県内の約6割の小学校に利用され児童・生徒の教育のために役に立っている。 また、県外の利用者も増えており、本県への誘客施設としての役割も果たしている。
指定管理者制度	学校利用が多く教育施設としての役割が大きいことや、「昆虫」という専門性の高いテーマを扱っているため、受け手となる具体的な団体の候補がない。 ぐんま昆虫の森の運営にあたり、昆虫飼育等を行う昆虫専門員(3名)を県で正規採用しており、昆虫専門員の知識や経験を最大限活用できる所属は、ぐんま昆虫の森以外にない。 来園者へのプログラム提供等についてもボランティアの多大な協力を得て実施している現状であり、指定管理者制度を導入することにより、人件費削減を図れるとは言い難い。 以上を勘案すると、指定管理者制度の導入は難しいものと考えられる。
業務等の見直し	1 平成21年度～24年度の「公共施設のあり方に関する中間報告」における提言を踏まえ、次のような見直しに取り組んだ。 ・正規職員の削減(開園時(H18)17人→(R5)10人) ・管理運営費の削減(各種業務委託の見直し)や、事業の見直し(ふれあい温室、映像トンネル等)による経費の削減に取り組んだ。 2 近年の取り組みとして、次のような低予算で利用者増につながる取り組みを行っている。 ・企画展フロアの展示を外注を極力無くし、職員が中心になって設置 ・季節展、絵画コンクール、フォトコンテスト等により、空白期間を作らないよう行事を展開 ・人気プログラム(昆虫飼育講座、ホテル観賞会、夜の雑木林の昆虫観察会等)の充実 ・学校利用説明会の実施 ・ツイッターによるリアルタイムの情報発信の頻度を上げる ・テレビ、ラジオの番組の活用により昆虫への興味・関心を高める取り組み
施設運営に当たっての課題	・施設の老朽化により、園内各種設備に頻繁な故障の発生や著しく劣化が進んでいる状況である。どれもが高額なため予算の確保に苦労している。 ・通常日及び休日とも開園していることからシフト制を導入していること、又、広大な敷地を管理しなければならないことから、会計年度任用職員及びボランティアを頼っても、人手不足に陥っている。